

こだま



金沢大学附属図書館報“こだま”

<http://library.kanazawa-u.ac.jp>

第182号
2014. 1

ISSN 0915-8782

CONTENTS

医学図書館モニュメント除幕式と記念講演会	……1
[特集] 附属図書館のECOへの取り組み	……4
シンポジウム「地球と人類のCO ₂ 物語」	
第2回ECO学習コンクール	
公開シンポジウム「里山×里海×文学」など	
ラーニング・アドバイザー制度開始	……9
金大生のための読書案内	……10
KULiC-α活動報告／とぼろニュース	……11
図書館トピックス	……12

医学図書館モニュメント除幕式と記念講演会 ～偶然と必然～



1. 医学図書館モニュメント除幕式【平成25年10月7日(月) 12:10～12:30】 ～デザインアイデアの元は、医学部創立150周年記念講演会から

医学図書館に何かしらのランドマーク（目印）的なモノを設置することは、リニューアルの設計段階からの密かな懸案事項であった。そもそもの始まりは、医学図書館の建物の色にある。宝町キャンパスにある他の建物と同系色であるため、医学図書館の位置を説明しにくいのだ。さらに、「医学図書館に集う人々すべての拠り所」となる象徴としてのモノが必要という“思い”もあった。

偶然か必然か、平成24年7月7日(土)に開催された医学部創立150周年記念講演会「これからの日本のあり方について（講師：安藤忠雄氏）」で1枚のスライドを見た瞬間、「医学図書館のランドマークによいのでは？」とひらめいた。早速、式典会場にいた柴田附属図書館長に「どうでしょうか？」と持ちかけたところ、「これですすめよう。」ということになった。しかし、スライドでみたモノは、「石の本の形」というだけで作者もわからず、安藤氏が手掛けた外国の美術館にあることはわかっているが、イメージだけでは手がかりさえない。柴田附属図書館長もあちこち問合せくださったが、わからないまま時間が経った。

8月に、プライベートで図書館めぐりのためにフィンランドを訪れた際に、Pasilaの公共図書館でらせん状の本（図1）が置かれているのを見つけた。初めは、DNAのらせんかと思ったが、よく見ると、本を登っていく赤ちゃんが最後は老人になるという、本と人の関わりを表しているようだった。イメージとしては参考になるのではと写真に取めた。

さらに、帰国後の8月下旬、本屋に立ち寄ったときに、もしかすると安藤氏の本に載っているかもしれないと思い探したところ、なんと『仕事をつくる』（安藤忠雄著、日本経済新聞出版社、2012.3）の207ページにあるではないか。探していたオブジェは、クーバツハ夫妻の「本をモチーフとした石の彫刻作品」（図2）であることがわかった。

9月になって、柴田附属図書館長や横田医学図書館長にも、この2つの作品をご覧いただいた。柴田附属図書館長は「クーバツハの石の本のようにまっすぐではなく、Pasilaの公共図書館のように曲がり過ぎないデザインがよいのではないか」、また、横田医学図書館長は「らせんは、医学に関係するからよいのでは」というご意見であった。こうして、デザインイメージは「らせんの本」ということで落ち着いた。

デザイン及び原型製作は、資料館職員の笠原健司氏が担当することになった。作品コンセプト（次頁参照）とデザイン案（図3）の策定、製作（図4）を経て、除幕式前の9月27日、ついにモニュメントが医学図書館前にやってきた（図5）。予想をはるかに上回る素晴らしいデザインと出来栄えに大いに感激して、すぐに写真を撮り、角間キャンパスの図書館スタッフに報告したのは言うまでもない。



図1 Pasila Library (Helsinki)



図2 クーバツハ夫妻と本をモチーフとした石の彫刻作品（安藤忠雄建築研究所提供）

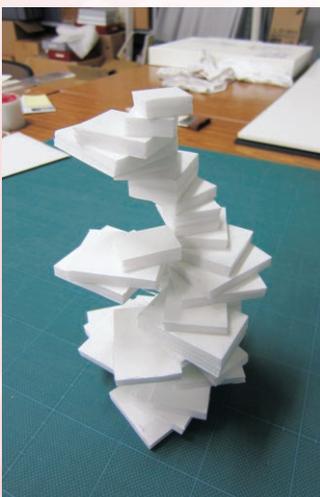


図3 初めのデザイン案



図4 製作
（黒谷美術株式会社）

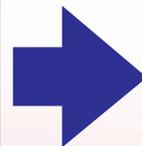


図5 作品名：Gene of Library
全長：250.5cm
重量：2.341kg
材質：ブロンズ 白御影石

作品コンセプト

知識の集積を表す「本」と、DNA構造を表す「らせん」の組み合わせを基本コンセプトとしている。

本を積み重ねることで、知識の集積地である図書館を表す。二重のらせんを描きながら昇って行く曲線のムーヴマン（＝動勢）を、先端学問の拠点たりうる大学の躍進にオーバーラップさせている。二重らせんは土台部分から立ち上がっているように見えるが、実は医学図書館の書庫から伸びているというイメージでもある。書庫という土壌から立ち上がる「書籍の樹」なのだ。

医学図書館の前に二本のらせん形があれば、誰もがすぐにDNAの二重らせん構造を想起するだろう。モニュメントが設置された2013年は、ワトソンとクリックによる核酸の分子構造の発見（1953年*）からちょうど60年という記念すべき年でもある。若き分子生物学者が現代に与えた影響は計り知れない。本モニュメントの設置は偉大な研究へのオマージュとも言える。しかしながら、本作品はDNAのモデルそのものを指すわけではない。見る人の視点によって、ある角度からは人が歩いているように、別の角度からはリングのように、また別の角度からは音符のように、そして時には立ち上る炎のように見えるであろう。図書館という公共的な空間に集う人々が様々な角度から見ることで多様なイメージを思い描くことを期待している。

また、本の堆積は知識の集積を意味するが、一冊だけずれた本は「独創」や「脱線」、更には「破壊」の意味をも含み込む。積み上げられたものを確実に踏襲し、更に道を模索するためには、それまでの自己の知識や経験、時には歴史すら破壊することも厭わない姿勢が必要ではないか。

黒谷美術の得意とするロスト・ワックス技法は原型の詳細な形状までブロンズに再現することができる。この技法を最大限に利用し、図書館で廃棄となった医学書や百科事典を使って原型から雄型までを製作した。これにより、書籍の背や表紙の皮の材質感、小口の紙の質感などが克明に再現されている。特に、古い蔵書シールが再現されている箇所はまるでレリーフのように見える。こうした本の特徴は図書館の利用者のみならず、図書館職員にとっても愛着のあるものではないだろうか。

本作品は、遠景から、中景、近景まで広いレンジで鑑賞できるように「しかけ」のあるモニュメントとして制作した。日常的にGene of Libraryを目にする人々が個々に美を感じてもらい、親しみをもってもらえることを期待している。

*但し、ノーベル賞の受賞は1962年。



（資料館 笠原 健司<デザイン・原型製作>）

2. 医学図書館記念講演会【平成25年10月7日(月) 12:40~13:30】

「よく日本一だった -『金沢大学医学部創立百五十周年記念誌』の編纂で学んだこと-」

除幕式に引き続き行われた講演会は、「150周年」を特に意識していたわけではなかった。けれども、常々、山本博医薬保健総合研究科長から『金沢大学医学部創立百五十周年記念誌』の編纂にまつわる話などを拝聴しており、医学図書館職員だけではもったいないので、ぜひ講演をと図々しくお願いしてみたところ、ご快諾いただき、モニュメント除幕式の日、医学図書館リニューアル記念イベントの一環として開催することになった。

当日、一般市民を含む約60名の参加者で医学図書館2階の十全記念スタジオは埋め尽くされた。山本研究科長は、編纂のために行った様々な調査を通じて、明らかになったこと、とくに「震災対応の歴史」の章では、関東大震災（大正12年）の際に他の機関に比べて手順よくできたことが、福井地震（昭和23年）、能登半島地震（平成19年）、東日本大震災（平成23年）での適切な対応に繋がったこと、また「戦争と学問」の章での、戦没者調査が今回の編纂における記録の照合につながったことなど、先人の苦労や辛さが身につまされる、編纂者ならではの経験談を披露された。

おそらく金沢大学関係者の誰しもが、多くの日本一を排出した金沢大学医学部（類）の輝かしい歴史や先人の功績に思いを馳せながら、今後は「金沢大学の全員が日本一を目指さなければならない」と改めて身の引き締まる思いになったことだろう。

ところで、モニュメント除幕式と講演会は、実は別々に計画されたのだが、「医学部創立150周年」というキーワードで1つにつながっていたのは偶然だろうか。

最後になってしまったが、モニュメント設置にご協力いただいた金沢大学医学部十全同窓会、およびご尽力いただいた教職員の皆様には深く感謝申し上げます。

（情報サービス課医学系分館係長 中本 悦子）

シンポジウム, ECO学習コンクール, 環境フェア…

金沢大学附属図書館の ECOへの取り組みをまとめて紹介します！

金沢大学附属図書館は、第2期中期目標・中期計画に掲げている「環境問題に関する見識を備えた人材を養成すること」という目標を受け、平成22年度以降、環境問題に関する学際的な資料を幅広く収集する「環境学コレクション」の整備を行ってきました。

その活用拡大を進める方策として、今年度は、

- 環境関連のシンポジウムの開催
- 第2回ECO学習コンクールの実施
- 石川クールシェアへの参加
- いしかわ環境フェア2013への参加

といった事業を行いました。以下、これらの取り組みについて紹介します。



シンポジウム

平成25年度金沢大学附属図書館シンポジウム

地球と人類のCO₂物語：二酸化炭素とのつきあい方を考えてみよう

平成25年12月13日(金) 13:30~17:00 会場：金沢大学自然科学系図書館 AV ホール

このシンポジウムでは、温室効果ガスの代表である二酸化炭素(CO₂)をテーマとして取り上げました。ひとことで言うと「CO₂大研究」です。

まず、「CO₂の活用技術」と「地球という大きな環境システムの中でのCO₂」という2つの観点から、神谷信夫大阪市立大学複合先端研究機構教授、本多了金沢大学理工研究域サステナブルエネルギー研究センター助教、中澤高清東北大学大学院理学研究科大気海洋変動観測研究センター客員教授の3人の先生に講演を行っていただいた後、鳥谷真佐子金沢大学先端科学・イノベーション機構特任助教の司会で、3人をパネリストとして、フロアからの質問を交えてディスカッションを行いました。



CO₂を取り巻く状況が感じ取れました。

内容的にはとても難しかった。が、テーマについてもっと調べたいと思いました。

普段学ぶことのできない新しいことをたくさん知ることができました。



▲吹き出しのコメントは参加者アンケートからの抜粋です。

今回のシンポジウムには石川高専環境都市工学科の1年生41名を含む71名の出席があり、ディスカッションでは、CO₂を取り巻くいろいろな問題について有意義な意見交換が行われました。

シンポジウムの資料は <http://dspace.lib.kanazawa-u.ac.jp/dspace/handle/2297/36307> でご覧いただけます。

講演 1 光合成と人工光合成：水を還元剤とするCO₂固定反応

神谷信夫（大阪市立大学複合先端研究機構教授）

46億年の地球の歴史の中で、約30億年前に始まった光合成によるCO₂固定（有機物の生成）が、その後の生物進化を支え、現在の豊かな生物界を作り出してきました。講演では、従来の光合成研究の中で「最後に残された最大の課題」とされたマンガン・クラスターを中心とした水分解・酸素発生を中心構造の概要と人工光合成デバイスの実用の可能性について述べられました。

**講演 2 下水処理水を利用してCO₂を資源化する・微細藻類を利用したバイオマス・エネルギー生産**

本多 了（金沢大学理工研究域サステナブルエネルギー研究センター助教）



微細藻類から油を抽出することでCO₂からバイオ燃料を生産するプロセスの開発が盛んに行われています。一方、下水処理水には微細藻類が増殖に必要とする窒素やリンなどの栄養塩類が含まれています。講演では、下水処理水を微細藻類バイオマス・エネルギー生産に利用するためのプロセス開発の現状と課題が、ろ過用膜の実物などを交えて紹介されました。

講演 3 気候を変える二酸化炭素

中澤高清（東北大学大学院理学研究科大気海洋変動観測研究センター客員教授）

この200年の間大気中のCO₂は増加の一途をたどっており、近い将来の気候を大きく変えようとしています。講演では、大気中におけるCO₂の重要な役割や研究の歴史が述べられた後、CO₂増加の実態とその原因、気候への影響について最新の知見が紹介されました。最後に、地球温暖化の緩和策と適応策が不可欠であることが述べられました。

**ディスカッション****「地球温暖化懐疑論についてはどう考えるか？」**

- ▶ 懐疑論者は一部の現象やデータを取り上げ、全体を見ていない傾向がある。

「人工光合成やバイオマス・エネルギーの実用化に向けての課題は？」

- ▶ コスト削減が課題。国家的なプロジェクトとなり、メーカー間競争が起こらないとコストの低下は進まない。

「地球は何度なら良い？」

- ▶ 一般的には気温が2度以上上昇すると悪影響が出ると言われている。

「コストも問題だがエネルギー収支の方はどうか？」

- ▶ デバイスの作り替えが多いと収支的に問題となる。少なくとも耐用年数を10年程度にする必要がある。

「地球温暖化問題における日本人の働きは？」

- ▶ 東北大学がCO₂とその気候影響について先導的な研究を行った。それに続く日本人研究者による研究も高く評価されている。今回公表されたIPCC第5次評価報告書にも多数の日本人論文が引用されている。

「地球温暖化に対する直接的な対策はないか？」

- ▶ 成層圏にゴミを入れるなどジオ・エンジニアリング的にはいろいろな案が考えられるが、科学的な評価が未確定なのですぐには導入できないだろう。

「本多先生の研究はノーベル賞を取れそうですか？」

- ▶ 研究の裾野の広がりのある基礎的研究が受賞しているので…難しいかな。



ディスカッションの一部です。
活発な意見交換や質疑応答が行われました。

だいにかい かなざわだいがく ふぞくとしょかん
第2回 金沢大学附属図書館
 がく しゅう
ECO学習コンクール

附属図書館では昨年度に引き続き、「第2回金沢大学附属図書館ECO学習コンクール」を開催しました。これは環境関連の図書館資料の活用を通じて地域貢献を行うことを目的とし、地域の小中学生を対象として環境問題をテーマとした調査や実験の成果を募集・審査・表彰するものです。

第2回となる今回は、金沢市、野々市市、白山市、かほく市の8小学校及び7中学校から、小学生部門34点、中学生部門27点、計61点の応募があり、その中から学長大賞（各部門1名）、日産大賞（各部門1名）、日産賞（各部門3名）、附属図書館長賞（各部門3名）の計16名の受賞者を決定しました。



表彰式は、11月3日（日・祝）に自然科学系図書館AVホールで行われ、16名の受賞者が出席しました。

柴田正良審査委員長（附属図書館長）による審査結果発表後、各賞の賞状・副賞の授与が行われ、その後中村信一金沢大学学長の挨拶、柴田委員長と増山若子日産自動車（株）経営企画本部環境企画室長代理による講評が行われました。

講評後は大賞受賞者4人へのインタビューが行われ、研究で苦労した点や楽しかった点、今後の研究目標などが語られました。

最後に記念撮影が行われ、受賞者の晴れやかな笑顔とともに表彰式は終了しました。

学長大賞

【小学生部門】
 金沢大学附属小学校6年 宮武知生
 「なわとびで発電できるかな? THEリベンジ」
 昨年のリベンジということで、さらに進化した研究内容となっていました。テーマの独自性や課題解決に向けてのユニークな方法、しっかりとした考察が高く評価された作品です。



【中学生部門】
 金沢大学附属中学校2年 白井秀昂
 「道路舗装色の变化と温度変化との関係—生活環境の色の变化を地球温暖化防止に役立てるために—」

街の色と温暖化の関係性に着目した点がとても面白い研究です。複数の実験に挑戦していて、その実験データをもとに、色と高温化抑制の関係性を丁寧に考察しています。



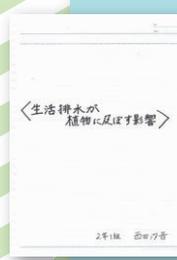
日産大賞

【小学生部門】
 金沢大学附属小学校5年 吉岡知足
 「犀川の水の調査と“そらなっとう”を使った水をきれいにする方法の研究」
 自ら足を運んで採取した犀川の3か所の水の水質を、化学的方法だけでなく、自分自身の五感と飼いだの五感を取り入れて調査した独自性が面白い研究です。「そらなっとう」を用いた浄化実験も評価のポイントとなりました。



【中学生部門】
 金沢大学附属中学校2年 西田汐音
 「生活排水が植物に及ぼす影響」

洗濯排水と植物の生長の関連性を調べるというテーマ設定がユニークな作品です。1つの実験にとどまらず、複数の実験を行い、その結果として生活排水が環境に及ぼす影響がクリアに得られている点が高く評価されました。



第2回金沢大学附属図書館ECO学習コンクール 受賞者

賞名	部門	学校名/学年	名前	作品名
学長大賞	小学生	金沢大学附属小学校6年	宮武 知生	なわとびで発電できるかな? THEリベンジ
	中学生	金沢大学附属中学校2年	白井 秀昂	道路舗装色の变化と温度変化との関係—生活環境の色の变化を地球温暖化防止に役立てるために—
日産大賞	小学生	金沢大学附属小学校5年	吉岡 知足	犀川の水の調査と“そらなっとう”を使った水をきれいにする方法の研究
	中学生	金沢大学附属中学校2年	西田 汐音	生活排水が植物に及ぼす影響
日産賞	小学生	金沢大学附属小学校3年	馬瀬 莉乃	ダンボールコンポスト～ごみ大变身～
		金沢大学附属小学校4年	望月 宥伽	水をきれいにしよう＝活性炭と竹炭を使って＝
		金沢大学附属小学校5年	福島 彩	金沢の「水」についての調査
	中学生	金沢大学附属中学校2年	高田 優佑	パスタのゆで汁の油落とし効果の研究
		金沢大学附属中学校3年	中村 百花	エアロゾルによる地球温暖化抑制効果
		金沢大学附属中学校2年	張 馨日	快適な環境と節電
附属図書館長賞	小学生	金沢市立諸江町小学校5年	背戸 菜々子	小水力発電の可能性を探る —水力発電からせん水車まで—
		金沢大学附属小学校5年	余合 志央莉	二酸化炭素の循環サイクル(カーボンニュートラル)
		金沢市立南小立野小学校6年	西尾 亮人	ECO冷水をつくろう!
	中学生	金沢市立西南部中学校3年	北川 輝	炎天下の車内における気温変動とそれに影響を及ぼす環境要因の検証
		金沢市立野田中学校2年	土肥 桃花	赤外線とヒートアイランド現象
		金沢市立紫錦台中学校2年	西尾 春人	身近な水力発電で家電製品を動かせるか?

受賞作品はhttp://library.kanazawa-u.ac.jp/?page_id=52で公開しています。ぜひご覧ください。

学長を中心に記念写真に納まる受賞者。
その後、会場となった自然科学系図書館の館内ツアーを行いました。



ECO学習 何でも相談会開催!

8月5日(月), 7日(水)に, コンクールに関連した「何でも相談会」を中央図書館オープンスタジオで開催しました。相談会には, 地元の小中学生10名が参加し, 金沢大学の学生(6名)と図書館職員から研究テーマの決め方や調べ方, 調査のコツ, 研究のまとめ方などについてのアドバイスを受けました。

参加した小中学生は持ち寄った研究テーマから思い浮かぶ疑問を列挙した後, その中から特に気になる疑問について, 百科事典などの本やインターネットを使って熱心に調査を行いました。

小中学生に対して調査方法を分かりやすく教えることは, 指導した学生にとっても貴重な経験となりました。

石川県内の河川の水質は東京と比べてどう違う?



バイオマス発電ってどんなもの?

金沢大学附属図書館〈環境学コレクション〉公開シンポジウム 里山×里海×文学

平成25年7月20日(土) 9:45~17:30 会場：金沢大学自然科学系図書館 AVホール

附属図書館と里山里海プロジェクトの共催により、環境学コレクション公開シンポジウム「里山×里海×文学」を自然科学系図書館で開催しました。

このシンポジウムは、里山・里海をめぐる問題に文学と生態学の2つの側面からアプローチすることと、環境に関する幅広い学問分野の書籍を集めた「環境学コレクション」の活用を意図したもので、丸一日をかけて里山・里海をキーワードとした活発な議論が行われました。

全体は3部構成で、柴田正良附属図書館長の挨拶、結城正美外国語教育研究センター教授による趣旨説明に続いて、ハルオ・シラネ コロンビア大学教授（日本文学）及び湯本貴和京都大学教授（生態学）による基調講演、学内外の研究者による報告がありました。各報告で、日本文学、英文学、歴史学、生態学など、それぞれの学問分野からの問題提起がなされた後、最後に里山里海プロジェクト研究代表の中村浩二特任教授を司会としてディスカッションが行われました。

シンポジウムには県内外から66名の出席があり、各講演の後にはフロアから活発な意見が出されるなど、自然環境と文学について有意義な意見交換がなされました。



日本文学における里山の意味について講演するハルオ・シラネ教授



生態学の立場から里山概念の変遷について講演する湯本貴和教授

講演プログラム

基調講演：里山—想像された風景

報告1：なぜ里山なのか—近代の自然言説から

報告2：中世日本の「里」と「山」—加賀軽海郷の開発と洪水

基調講演：里山：その実態の歴史の変遷と現代的表象

報告3：里の不在—『もののけ姫』の衝撃

報告4：里海としてのケープコッド

報告5：里山ブームとは何か—風景、場所、ゾーン

ディスカッション&総括

司会：中村浩二（金沢大学特任教授／金沢大学里山里海プロジェクト研究代表）

ハルオ・シラネ（コロンビア大学教授）

生田省悟（金沢大学教授）

黒田 智（金沢大学准教授）

湯本貴和（京都大学教授）

野田研一（立教大学教授）

村上清敏（金沢大学教授）

結城正美（金沢大学教授）

上記講演で使用されたプレゼン資料は<http://dspace.lib.kanazawa-u.ac.jp/dspace/handle/2297/35154>でご覧いただけます。

いしかわ環境フェア2013に参加しました！

金沢大学附属図書館は、8月24、25日、石川県産業展示館で開催された「いしかわ環境フェア2013」に参加し、ECO学習コンクールの広報を中心に、附属図書館で行っている環境問題に対する取り組みを紹介しました。

「いしかわ環境フェア」は本格的な低炭素社会の実現に向け、県民や企業にエコライフと新たな環境投資を推進してもらうために(社)いしかわ環



境パートナーシップ県民会議が主催しているイベントで、150以上の企業・団体等が出展し、今年は約2万4千人の参加がありました。

いしかわクールシェアスポットとして図書館施設を開放しました！

いしかわクールシェアとは、夏の暑い日に県内の涼しい場所を共有することにより、家庭の消費電力を抑制する取り組みです。この取り組みの趣旨に賛同し、涼しく快適な時間を過ごせる県内の施設・店舗等を「いしかわクールシェアスポット」といいます。金沢大学附属図書館は、それぞれ以下の期間、図書館施設をいしかわクールシェアスポットとして開放しました。

- 中央図書館
8月5日(月)～9月13日(金)
- 自然科学系図書館
8月6日(火)～9月20日(金)
- 医学図書館
8月1日(木)～8月31日(土)

(情報企画課副課長 橋 洋平)
(情報企画課雑誌・電子情報係 川井 奏美)

教えて！先輩

“ラーニング・アドバイザー(LA)制度”開始

附属図書館では、後期授業の開始に合わせて、ラーニング・アドバイザー(LA)制度の運用を始めました。教員から推薦された大学院生や3・4年生が、学習相談員として活躍しています。平成26年1月15日現在、LAとして登録している学生は33名、LA制度を利用している授業等は15科目です。

LAの活動内容としては、教員の指示の下、補習的なレクチャー、授業を欠席した学生への支援、レポート添削、実験の指導やレポートの書き方指導、プレゼンテーション資料の作り方や発表の仕方の指導などを行っています。

大学では15回の授業で2単位と認められていますが、本来、2単位認定に必要な時間は90時間です。つまり、1回の授業に対して4時間を超える予習復習を含めて単位が認定されているのです。LA制度は、学生の主体的な学習、予習、復習を支援して、本学の「自学自習」の理念を実現しようとするものです。

このLA制度を、ぜひ、ご活用ください。

学生の皆さんへ

授業に関連して深く掘り下げたいテーマがありましたら、担当の先生にLAを要請してみてください。先輩ならではのアドバイスで、あなたの悩みはきっと解決します！

先生方へ

詳しくは、図書館ホームページの右列から「ラーニング・アドバイザー／Learning Adviser」をクリックしてご覧ください。



LAマスコット

(情報サービス課副課長 松原 美重子)



杉村 安幾子 先生
(外国語教育研究センター准教授)

「怖い話は好きですか? —— 異界からの招待」

平成25年11月6日～ 中央図書館で展示中

第14回



教員から教員へ、リレー形式で続いている教員おすすめ図書コーナーは、今回で第14回を迎えました。今回バトンを受け取ってくださったのは外国語教育研究センターの杉村安幾子先生です。

怖い話・不思議な話が大好きである。そして、かなりの怖がりでもある。

小学校低学年の時、図書館から借りた『耳なし芳一』を読み、あまりの恐ろしさに全身に鳥肌が立った。その晩眠れず、半泣きで「もう怖い話など借りるものか」と思ったが、『耳なし芳一』を返却した後、借りた本は『播州皿屋敷』だった。そしてその晩、またも眠れなかった。

恐怖感とは人間の本能に根差す本源的な感情であるが、何故か味わってみたいという欲求が生じ、味わった後には一種の快感を覚えてしまう。どの国の文学にも怪奇ものの系譜があるが、それはそうした人間の快感への欲求を顕著に示していると言えるだろう。要するに、どの国のどの時代の人にも「怖い話」が好きだったのである。

怖い話は数多くあるが、とりあえず誰が読んでも楽しめる作品を選んでみた。「怖い話と言っても、以下の推薦図書は怪談に奇談にサスペンスと、何でもありじゃないか」と思われる向きもあるかもしれない。それでも、面白さは保証する。教科書や参考書に飽きた人にお勧めである。一冊手にしたその時から、異界への扉は開かれるだろう。「怪談は夏のもの」と決めつけたりせず、たまには怖い話・不思議な話を読んでみてはどうだろうか？

もっとも、怖がりでないとい怖い話を楽しめない、ということはあるらしい。身内に怪談の類を全く怖がらない者がいる。恐怖感を覚えないゆえに、ホラー映画や恐怖漫画もどこが面白いのかわからないようで、淡々と流して、少しも楽しそうではなかった。以下の作品群も、怖がりでない人にはつまらないラインナップかもしれない。

	書名 著者、出版事項
1-2	聊齋志異(上)(下) 蒲松齡作;立間祥介編訳,岩波書店,1997
3-5	江戸怪談集(上)(中)(下) 高田衛編・校注,岩波書店,1989.1-1989.6
6	雨月物語 上田秋成[原著];高田衛,稲田篤信校注,筑摩書房,1997.10
7-8	中国怪異譚聞微草堂筆記(上)(下) 紀昀著;前野直彬訳,平凡社,2008
9-11	白衣の女(上)(中)(下) ウィルキー・コリンズ作;中島賢二訳,岩波書店,1996.3
12	ねじの回転 ヘンリー・ジェイムズ[著];瀧沢忠枝訳,新潮社,2005.5
13	遠野物語:山の人生 柳田国男著,岩波書店,1976.4
14	青蛙堂鬼談 岡本綺堂著 中央公論新社,2012.10
15	近代異妖篇 岡本綺堂著 中央公論新社,2013.4
16-17	レベッカ(上)(下) デュー・モーリア著;茅野美どり訳,新潮社,2008.3
18	東欧怪談集 沼野充義編,河出書房新社,1995.1
19	ロシア怪談集 沼野充義編,河出書房新社,1990.5
20	鬼火:底のぬけた柄杓:吉屋信子作品集 吉屋信子著,講談社,2003.3
21	真夜中の檻 平井呈一著,東京創元社,2000.9
22	能登怪異譚 半村良著;村上豊絵,集英社,1987.10

おすすめ図書紹介文の全文は、展示コーナーの他に、図書館Webサイトの次のページでもご覧いただけます。

<http://www.lib.kanazawa-u.ac.jp/portal/osusume/1311sugimura.html>

●第13回「自分、家族、社会を考える読書－キーワードは「北欧」－(大学教育開発・支援センター・堀井祐介先生)は医学図書館、第12回「人は物語を生きる(保健学類・天野先生)」は保健学類図書室で、それぞれ展示中です。



[13. 遠野物語:山の人生]



[22. 能登怪異譚]

KULiC-α 活動報告

2013年7月～12月

オープンスタジオでの活動 ワークショップ、セミナー等の開催

- 11月11日～13日
卒論・レポートのための資料の集め方講座
- 11月15日
就活生、就活予備軍の皆さんへ
：日経テレコンの使い方
同日、総合教育棟A1講義室でも開催しました



ブックラウンジでの活動

ブックラウンジでのイベント

- 7月17日, 10月23日, 11月20日, 12月18日 「図書館ビブリオバトル」



- 11月11日 かふえトーク「ポスターは、私の夢や希望である」
(講師：松浦昇金沢大学名誉教授)

その他、金大祭での「ピアノの会コンサート」やサークル活動なども行なわれました。



ギャラリーαでの展示

- 8月6日～8月20日 「ウォール・チャート・アーツ出張展示」(資料館)
- 9月5日～10月30日 「いしかわ環境フェア出展パネル展示」
- 11月1日～11月28日 「ポスターは時代の鏡である：松浦昇展」
*医学図書館ブックラウンジでも同時開催
- 12月17日～12月20日 「デザイン・工作課題作品発表」
(学校教育学類・美術教育)



図書館学生ボランティア とぼらニュース

[今期の活動]

- ・ とぼら選書 (おすすめ図書) コーナー入れ替え「プレゼンの知恵」(7/16)
- ・ 就職支援図書展「いざ、就活」(11/19～12/10) (附属図書館, 就職支援室との共催)
就職支援室を訪ね、展示したいもの、掲示したいものを確認 (10/15),
展示作業 (11/19), 撤収作業 (12/10)
- ・ 選書会 (7/30, 10/1, 10/29, 11/26)

毎週火曜日のお昼休み、中央図書館3階オープンスタジオでミーティングをしています。気軽に声をかけてみてください。中央図書館サービスカウンターでもメンバーを随時募集中!



「とぼら」は金沢大学図書館学生ボランティアの愛称です。図書館をもっと学生が楽しめる場所にするための企画・運営を行っています。





図書館



8/8-9 オープンキャンパス2013

サマーアドベンチャー&教科書展 中央

大学図書館の雰囲気を感じてもらおうと、館内オリエンテーリングを行いました。チェックポイントとして、大学の授業で使われている教科書の展示や、過去の入学試験問題などを展示しました。参加した高校生らは、参加賞として配布されたチケットでジュースなどを飲みながら、「ほん和かふえ。」で一息ついていました。



「ほん和かふえ。」に並ぶ高校生

9/2 自動販売機を設置 医学

ブックラウンジに自動販売機を3台設置し、ペットボトルや缶コーヒー、紙コップの飲みもの、パン類などを提供しています。設置後、利用率が上がっているため、今後、中央図書館の「ほん和かふえ。」のような施設の設置を検討していきます。

データベース講習会を開催

- 9/13 EBMR講習会 医学
- 9/27 SciVal Experts講習会 自然科学 医学
- 10/16 Web of Science講習会 自然科学 医学

後期の授業開始にあわせ、自然科学系図書館と医学図書館を会場に開催しました。どの講習会にも多くの参加があり、研究者、学生の皆さんの熱意が感じられました。

- *「EBMR」…医療従事者向けに設計された「科学的根拠に基づく医療」の実践を支援するデータベース
- *「SciVal Expert」…研究業績の発信や把握に活用できる研究者情報システム
- *「Web of Science&End Note Web」 学術雑誌論文及び引用情報のデータベース

図書館ウェブサイトからご利用ください。

*このほか、各館でゼミ、グループ単位の講習会も実施しています。随時受付中！

10/25,30 留学生オリエンテーション

中央 自然科学

10月入学の留学生を対象に、角間キャンパスの2館で開催しました。今回は、「KISSA (金沢大学国際交流室)」の皆さんの協力を得て、学生さんが学生さんに説明するという新しい試みを行いました。利用者目線の説明がたいへん好評でした。



11/8 県大学図書館協議会特別研修会

「学習支援と大学図書館」 中央

石川県大学図書館協議会主催（大学間連携共同教育推進事業(大学コンソーシアム石川)共催)の研修会には、県内外から多くの図書館職員や関係者が参加しました。井上真琴氏（同志社大学学習支援・教育開発センター事務長）による基調講演や事例報告がありました。

11/12-14 第6回ブックリユース市 中央

5月開催時のアンケート結果をうけて、今回は、開始時間を12時半にし、さらに、14時半に200冊程度追加することで、より多くの方が図書を手にすることができるようになりました。出品点数1,915冊のうち、1,156冊の図書が新しい持ち主へと引き継がれていきました。



資料展示

中央図書館

- 学生サークルKuLOs展示 (7/22~8/5)
- 学生サークルEn2展示 (10/4~10/21)
- 「いざ、就活 (就職支援図書展)」 (11/19~12/10)
- 国立女性教育会館図書パッケージ貸出サービス「セクシュアリティ・セクハラ・児童虐待・児童福祉」展示 (11/19~2/20)



自然科学系図書館

- 「ブルーボックス祭 (講談社ブルーボックス展)」 (10/7~11/1)
- 「理系英語を鍛える」 (11/25~12/20)

編集後記

ECO学習コンクール、2回のシンポジウム開催など、今号では、附属図書館のECOへの取り組みを改めて紹介しました。「環境問題に関する見識を備えた人材養成」を目標に、今後も活動を続けていきます。

また、12月3日には、7年間にわたって教職員向けに配信してきた「ひかり:金沢大学附属図書館メールニュース」を廃刊しました。今後は、この「こだま」やFacebook、アカンサスポータルからの情報発信を行っていきます。

広報委員会メンバー

村田勝俊	松原美重子	瀧口玲子	守本瞬
野田晶子	川井奏美	大板聡子	押見智美

金沢大学附属図書館報「こだま」第182号

平成26年1月31日発行 発行：金沢大学附属図書館
 編集：広報委員会 印刷：株式会社 橋本確文堂
 〒920-1192 金沢市角間町 TEL：076-264-5200
 E-mail：etsuran@adm.kanazawa-u.ac.jp

*この印刷物は再生紙を利用しています。